

## 現代高齢者福祉における「希望」の位置

### —ニーズと「本人の希望」を核においた社会的支援に関する試論—

○ 日本社会事業大学大学院 佐藤 惟 (8710)

キーワード：高齢者福祉、希望、ニーズ

#### 1. 研究目的

「希望」は、日々の会話、新聞やテレビ・書籍などのメディア媒体においても頻繁に目にする、ごく日常的な言葉である。2011年3月11日に起きた東日本大震災を経て、「希望」は復興とも結び付けられるような形でますます語られるようになってきた感があるが、社会科学分野ではその少し前から、この言葉に注目が集まり始めていた。若者の間で広がる「経済格差よりも深刻な、希望の格差」(山田 2004)が論じられ、「希望を社会科学すること」を掲げた「希望学」と称する研究プロジェクトも登場した(東大社研・玄田・宇野 2009)。このような動きは日本国内にとどまらず、全世界的に、「希望」というテーマに関心が集まっているとする人類学者の指摘もある(宮崎 2009)。これまで主に心理学の領域で語られてきた希望が、社会科学の対象としても取り上げられるようになった影響は大きく、社会福祉の周縁でも、すでに精神保健領域等において「希望学」の考え方を取り入れた研究報告が登場している(池淵 2014)。

とはいえ現状、社会福祉学の枠内において、人々が抱く希望は研究の対象として十分、市民権を得ているとは言い難い。社会福祉の対象を語る上でまず問題となるのは、そこに「ニーズ」(あるいはニード、必要)が存在するかどうかということであり、社会福祉のニーズは、単純に支援対象となる人々が訴える種々の要求(需要、デマンド)とは一線を画すものとして語られてきた(武川 2011)。希望は、内容的にはデマンドと近い概念である。一方で、2000年の社会福祉基礎構造改革と介護保険制度導入を契機に、多くの福祉サービスは支援を必要とする人々の自由な選択に基づく利用契約制度となり、「福祉の普遍化」と呼ばれる状況が進むにつれ、社会福祉を取り巻く状況は日々変化し続けている。実践レベルにおいては、各種介護サービス計画やアセスメント項目の中に「利用者及び家族の希望」といった項目が含まれるようになっており、希望は重要な位置を占めるようになってきているようにも見える。以上の背景を踏まえて本研究では、超高齢社会を迎え、高齢化率で世界のトップを走り続ける現代日本の高齢者福祉において、「希望」の概念がどのように捉えられているのかを探究する。

#### 2. 研究の視点および方法

医療・保健・福祉など対人サービスの現場では、希望と類似した概念として「意思」「意

向」「要望」「思い」といった用語が用いられることも多いが、本研究ではこれら類似の表現を包括する概念として、「希望」をとらえる。

本研究は文献研究である。まず、介護保険制度導入から現在に至るまでの政策議論や各種文書の中で、「高齢者の希望」と関連する部分を抽出した。第二に、近年のニーズをめぐる議論を参照する中で、ニーズとデマンド、希望の概念を整理した。その上で、現代の高齢者福祉における高齢者のニーズと希望との関係、および必要な社会的支援を考察した。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理指針に準拠したものであり、文献からの引用に当たっては「A引用」を遵守している。

### 4. 研究結果

介護保険制度導入にいたる過程で、「高齢者自身の希望を尊重し、その人らしい自立した質の高い生活を送れるよう、社会的支援体制を整備」することが、その基本理念として謳われていた（厚生省高齢者介護対策本部事務局 1995）。「自立支援」や「利用者本位」は、高齢者が要介護状態になっても希望する生活を送ることができるよう、社会として支援する姿勢を示したものである。

ニーズをめぐる議論では、専門職の判断による「客観的ニーズ」だけでなく、「主観的ニーズ」もまた重要であることを指摘する研究が 2000 年頃から増え始め、「実際のところ、『ニーズ』は、その人の〈望み〉と切っても切り離せない」（出口 2013）という論調も見られるようになった。一方で、ニーズとは本人の意識・希望に関わらず、人間としての尊厳を守るために必ず満たされなければならないという、絶対的なものを根底に置いた捉え方であり（岩田 2013）、あくまで希望と同一視することはできない。近年はマズローの欲求段階説を参考に福祉ニーズを低次と高次に分け、高齢者の意向や自己実現と密接に関わる「高次の福祉ニーズ」を探究する研究も登場した（岡本 2013）。

### 5. 考察

21 世紀に入り新たに導入された高齢者福祉のシステムは、「高齢者自身の希望」や「自己実現」を基本理念に含むものであった。一方で「介護の社会化」をも大きな柱としていた介護保険制度では、高齢者を介護する家族の希望もまた斟酌すべき重要な要素となっている。家族と要介護当事者の利害は直接に対立し合う場合があり（上野 2008）、判断力の低下が疑われる高齢者自身の希望は、十分に顧みられていないケースも多い。

個人の尊厳を守るため、客観的なニーズの基準に基づき、必要最低限の生活を保障することは社会福祉の第一の役割である。その上で、現代の高齢者福祉においては、高齢者本人の希望を丁寧に、広い視野を持ってすくい上げ、支援していくことが求められる。